

### 4-1-9-3 麻酔科（手術室を含む）

#### 1. 診療活動

平成 18 年度は鈴木麻酔科医長の下 4,520 件の麻酔管理をおこない、（17 年度は 4,438 件）国立成育医療センター開設以来麻酔件数は増加の一途を辿っている。診療科別には外科 688 件、耳鼻咽喉科 599 件、産科 553 件、眼科 361 件、泌尿器科 346 件の順に多い。年齢別には 1 ヶ月未満が 74 件、2 ヶ月から 1 歳が 596 件、1 歳から 5 歳が 1,500 例、6 歳から 18 歳が 1,397 例、1 歳未満の乳児の症例が 670 例（14.8%）、うち新生児症例は 74 例（1.6%）となり、新生児症例の絶対数も国内有数である。

開設以来麻酔科医による硬膜外麻酔による無痛分娩をおこなっており、その件数は平成 14 年 81 件、15 年 221 件、16 年が 294 件、平成 17 年は 286 件と年約 300 件ペースであったが、平成 19 年 3 月 1 日付けで角倉弘行産科麻酔主任が赴任しさらに増加傾向である。開設当初は関係各所の理解や連携が不十分だったため、深夜帯のカテーテル挿入など麻酔科医の負担が多く、計画無痛分娩を推奨するようにしていたが、現在は産科麻酔部門を増強し、必要時に開始する傾向と変わっている。当院での無痛分娩は好評をいただいております、当院で再び無痛分娩を希望する患者も多く、また、患者間の口コミによる希望者も多い。

今までは、薬剤や機材の準備で麻酔科医の時間が無駄に費やされていると同時に麻酔科医のパワー不足から産婦さんに望ましい医療が提供できていない点もあったと自己評価しているが、薬剤部、看護部の協力のもとに徐々に改善されつつある。

ハイリスク妊娠の増加にともない帝王切開手術が増加しており、昨年度もその増加傾向は継続している。過去には周術期合併症で肺梗塞症例が帝王切開術後に 2 例あったが、幸い早期発見と急性期初期治療により、2 例とも救命することが可能であったが総合的な内科重症患者治療体制を持たない当施設としては、安定後早期に成人施設への搬送が望ましい場合もあり、近隣の成人医療機関と友好的な関係を維持している。しかし、周産期医療をとりまく状況が悪化している中、周産期高度医療機関として合併症のあるハイリスク患者への対応をさらに求められる傾向にあり、麻酔科、ICU のみならず重要な課題である。

また、当直帯においては手術集中治療部として 4 名で当直し、手術室業務と集中治療室業務を協力的体制のもとにおこなっている。2 名の麻酔担当医が夜間帯の緊急手術や、病棟での急変患者の対応をおこなっている。緊急麻酔症例も増加しており平成 16 年度は 414 例で、全麻酔症例の 9.7%となった。加えて定時手術が日勤帯を越える割合は全体の 20%を越えており、これも麻酔科医のワークロードを増やしている。

麻酔科業務のなかで術前患者の評価は重要であり、日本麻酔科学会の業務改善提言の中でも推奨されているが、当科は開設以来これを行っており、これは効率の良い手術室運用に貢献している。麻酔科術前評価外来は 2 名の麻酔科医が 2 階の 2 ブースにおいて毎日おこなっている。それと並行して CT、ABR、脳波検査などの鎮静外来、在宅酸素人工呼吸器外来、無痛分娩外来をおこなっている。在宅呼吸管理の患者数も増加し、当センター開

設以来、在宅酸素患者は346名、在宅人工呼吸患者は54名となっている。外来ブースもしくはデイケアー他診療科との協力のもと診療をおこなっている。

その他11階東2名、10階東1名、10階西1名、9階西2名、8階東3名、8階西2名、7階東2名、7階西1名の慢性人工呼吸管理の患者の呼吸管理をおこなっているため、麻酔科医の業務は24時間体制で多忙である。

## 2. 教育

毎朝7時30分から日替わりで重症麻酔症例とICU入室症例検討、救急、麻酔、ICUの3科合同抄読会、慢性人工呼吸や疼痛管理患者の病棟回診、麻酔症例でのニアミス・問題症例のreview、ICU/救急患者のreviewのテーマ別30分間講義、前帝京大学教授諏訪先生の講義と早朝に講義/教育をおこなっている。昨年度実施していた17時からの勉強会は手術症例の増加に伴い継続困難となったため、レジデントのローテーションに合わせて麻酔各論の講義を施行し教育を充実させている。教育に関しては、麻酔科、ICU、救急診療科の3科の教育担当スタッフが協議して年度ごとの教育プログラムを策定、レジデントのフィードバックを受けながら、よりよい研修をめざして改訂を重ねている。

## 3. 学生実習

例年、東邦大学、聖マリアンナ医科大学等より数名の学生実習依頼があるが、2006年は、聖マリアンナ医科大学6年生が2名学生実習をおこなった。

## 4. その他

人事では19年3月から角倉医師を常勤産科麻酔主任として迎え、田中医師(現在カナダ留学中)不在により停滞気味であった産科麻酔領域の充実強化を企図した。レジデントが7人から9人であるため、手術症例の麻酔管理、病棟呼吸管理、病棟疼痛管理、麻酔科外来での術前評価外来、鎮静外来、在宅酸素人工呼吸管理外来と多種多様に渡る業務を科内のチームワークおよび他科との連携によりこなしている。麻酔科は今後もより一層部内および他科とのチームワークを大切に、多種多様な疾患や合併症の多い症例のリスクを正しく評価し、各診療科との協力のもとに患者の安全と快適を目指して診療をおこなう所存である。